

## 1.2.3 教育内容・方法

### 1.2.3.1 カリキュラムの編成

#### <2003年度に設定した目標>

今後とも、将来構想委員会を中心に、時代の変化や学生の要請を考慮に入れてカリキュラム全般にわたっての検討を続けているが、将来に向けての目標は以下のようなものである。

#### 1. カリキュラムの整備

現在のカリキュラムは簡素化されたものになっているが、実際に提供されている授業内容に合わせ、また学生の便宜のために、カリキュラムを整備する。その際、前期課程については、伝道者育成という目標をさらに達成できるよう方策を講じる。

#### 2. キリスト教思想・文化コースの設置

神学部は、2004年度からキリスト教神学・伝道者とキリスト教思想・文化の2つの履修コースを設けた。神学研究科のカリキュラムは、ことに前期課程において、前者のみに対応しているため、キリスト教思想・文化コースの学生がさらに研究を続けることができるよう、2008年度までにカリキュラムを編成する。

#### 3. 高度職業人育成のための科目を充実させる

さらに高度な職業人を育成するための授業科目を、神学部との連続性も考慮しながら、設置する。

#### 4. 単位認定制度の導入

ボランティアや教会での活動など、神学研究科学生は、課外での活動を積極的に行っている。これらの活動を単位として認定するための指針を策定する。

### 【評価項目 6-1-1】 教育課程

- (必須要素) カリキュラムの編成方針と教育理念・目的との関係
- (必須要素) カリキュラムの体系性と教育理念・目的との関係
- (必須要素) 学部基礎を置く大学院研究科における教育内容と、当該学部の学士課程における教育内容の適切性及び両者の関係
- (必須要素) 修士課程における教育内容と、博士(後期)課程における教育内容の適切性及び両者の関係
- (必須要素) 博士課程(一貫制)の教育課程における教育内容の適切性
- (必須要素) 課程制博士課程における、入学から学位授与までの教育システム・プロセスの適切性
- (選択要素) 創造的な教育プロジェクトの推進状況

#### (現状の説明)

学生の学修意欲を増進させ、キリスト教界、とくに教会やキリスト教主義学校、社会福祉や社会活動の領域において指導的な役割を果たす人材の育成、ならびに、神学の領域における独創的な研究者の育成という研究科の教育目標を達成するために、授業科目等のカリキュラムを構成している。

神学部のカリキュラムは、2004年度キリスト教神学・伝道者コースとキリスト教思想・文化コースの履修コース開設に伴い、全面的に改編を行ったが、神学研究科博士課程

前期課程・後期課程ともに教育内容はコース制以前の教育内容を引き継ぎ、前期課程と合わせた6年一貫の伝道者育成を中核とした内容としている。

前期課程の授業科目は、神学を専攻領域とし、学生の研究課題に合わせて深い学びを可能とするという考えに基づいて、研究演習や特殊講義を中心に、教会実習・臨床牧会実習を加えて構成されている。

学生の研究指導は、各分野の研究演習において行われている。修了に必要な単位数は32単位で、必修科目ならびにその単位数は、研究演習8単位、聖書学特殊講義4単位であるが、それに加えて、研究分野ごとに必修科目ならびにその単位数を定めている。

<研究分野と必修科目・単位数>

研究分野	必修科目	単位
旧約神学	原典研究	4単位
新約神学	原典研究	4単位
歴史神学	キリスト教史学特殊講義	4単位
宗教学	宗教学特殊講義	4単位
キリスト教学	キリスト教学特殊講義	4単位
宗教哲学	宗教哲学特殊講義	4単位
臨床牧会学	キリスト教人間学研究	4単位
実践神学	実践神学特殊講義	4単位

また、将来日本基督教団教師となることを志望する者については、上記とは別に教会実習2単位を履修しなければならない。これは、臨床牧会実習2単位と並んで、高度職業人を育成するためのインターンシップである。

現行カリキュラムは、神学部におけるキリスト教神学・伝道者コース生のみを対象としており、キリスト教思想・文化コース生を対象としていない。

後期課程においては、在籍者により、その専攻分野に対応させるために、毎年カリキュラムは弾力的に組み替えられている。在籍者に対しては、研究演習を中心として、論文指導の他、きめ細かい指導を行っている。

(点検・評価の結果)

前期課程のカリキュラムは、キリスト教宣教のための高度な専門的知識を備えた伝道者を育成することを基軸として編成されているが、キリスト教界や社会の要請に対応するとともに、キリスト教会での指導者としての実践性を高めるためにも、教会実習や臨床牧会実習などのインターンシップ科目における内容点検が必要である。

神学部キリスト教思想・文化コースの学生が卒業する前に、神学研究科博士課程前期課程・後期課程のカリキュラムをそれらの学生が継続して研究が可能ないように改編を行うことになっている。既に方向性や枠組みは素案が作成されている。

後期課程については、研究者育成の教育目的に従って、学生の研究領域に対応できるよう弾力的に編成を行っているが、研究者育成に限らず、学生がどのような目的を持って後期課程へ進学しているのかを十分に把握し、適切な教育内容を考える必要がある。

#### (改善の具体的方策)

1. 前期課程は、高度職業人（伝道者）育成を中核とするカリキュラムの編成をさらに充実させ、キリスト教会やキリスト教主義学校、キリスト教団体等の現場の要請に応える内容に基づき実践的な科目、実習科目の整備を行う。つまり、牧師としての「ライフデザイン・プログラム」、ならびに「牧会学関連科目」を設置する。
2. キリスト教思想・文化コース学生の教育課程については、神学の基礎的な知識の修得を踏まえた専門的な思索と研究が可能ないように、「神学基礎科目群」や「特殊講義」「研究演習」を設置する。
3. 社会人学生など学部における神学教育を経ていない学生の増加に対応するために、「神学基礎科目群」を設け、さらに学部における外国語専門書講読、入学試験、外国語学力認定試験、修士論文とさまざまな形態で行われている外国語学力の認定を一本化し、2008年度からは「外国語専門書講読」を設ける。
4. 後期課程に関しては、理論と実践が統合し得るようなカリキュラムの編成を考えると、現場での実践活動を経ながら、理論に基づく検証を可能にし、結果として課程論文に結びつくような科目の整備を行う。

#### 【評価項目 6-1-4】 単位互換/単位認定等

(必須要素) 国内外の大学等との単位互換方法の適切性

#### (現状の説明)

本学と関西大学大学院、同志大学大学院、立命館大学大学院の関西四大学大学院単位互換履修交流制度や本学他研究科との相互履修による単位取得が可能となっている。

本学他研究科との相互履修において、2004年度は、社会学研究科・文学研究科の社会福祉系、心理学系科目に2名ずつの派遣があった。また、総合政策学研究科より1名の受け入れ（「キリスト教人間学研究」への受け入れ）があった。

#### (点検・評価の結果)

1. 関西四大学大学院単位互換は、近年、派遣も受け入れも実績に乏しい。2003年度に1名を派遣したが、単位修得に至らなかった。安易な姿勢は相互にマイナスとなる。
2. 本学他研究科の相互履修について、例えば社会福祉や心理学関係の領域は、高度職業人育成上必要とされる領域でもあり、神学の基礎的な知識を修得の上に補完的な意味がある。近年において、宗教的・倫理的領域と他領域との対話がますます深まっており、現行制度のような単位互換は意義あるものとなっている。

#### (改善の具体的方策)

1. 単位互換については学生本人と指導教授の間で十分な学習計画を立て、現行制度の活用を図る。
2. 単位認定の新たな試みとして、学会発表、研究会発表、教会での実践的活動を一定の条件にしたがって取り入れることを検討する。

## 【評価項目 6-1-8】 生涯学習への対応

(選択要素) 社会人再教育を含む生涯学習の推進に対応させた教育研究の実施状況

### (現状の説明)

学外講座委員会の下で、教会の現場で働いている牧師のリカレント教育を目的に「教職セミナー」を開催している(年1回)。例年、キリスト教界内外のタイムリーな話題を取り上げ、発題するとともに、その話題に最もふさわしい講師を招き、講演を行っている。

2004年度 テーマ：特別講演会《山上の説教》と政治

講師：ベルン大学名誉教授 ウルリッヒ・ルツ 氏

参加者：63名

2003年度 テーマ：「明日のキリスト教－平和・女性・アジア、そして日本のキリスト教－」

講師：日本キリスト教協議会議長 鈴木 伶子 氏

参加者：27名

2002年度 テーマ：「宣教の広がり－多様なミニストリーの中で－」

講師：釜ヶ崎ディアコニアセンター・喜望の家 秋山 仁 氏

派遣エイズ・カウンセラー 榎本 てる子 氏 他

参加者：23名

また、中学校・高等学校における聖書科教師や宗教主事の研修機会として、「キリスト教教育研究会」を組織し、支援を行っている。

2004年度 テーマ：「宣教論の中でのキリスト教学校の位置づけ

－わたしたちはどのようなキリスト教を伝えているのか－」

参加者：21名

2003年度 テーマ：「キリスト教教育の今日的課題」

参加者：17名

2002年度 テーマ：「キリスト教教育の原理と実践」

参加者：19名

### (点検・評価の結果)

教職セミナーなど、これらの行事は、再教育ないしリカレント教育としての視点から評価できる。

このような知識と経験を生かすことを目的にした科目が既存のカリキュラムの中にあるとは言い難い。今後はこのような知的資源を生かすことを目的にしたカリキュラムを作ることを検討する必要があると考えられる。

将来構想委員会から、学外での一般向けキリスト教講座を常設する旨の提言がなされているが、実現していない。学内の協力を得ながら、実現に向けて努力する必要がある。

(改善の具体的方策)

大学院修了後、何らかの方法で職業人としての知識や能力の向上を目指した継続教育のプログラムを開発していく。また、キリスト教の現在を知ることができるようなエクステンション・プログラムを検討する。

### 1.2.3.2 教育・研究指導のあり方

<2003年度に設定した目標>

今後とも、将来構想委員会を中心に、時代の変化や学生の要請を考慮に入れて、履修指導や研究指導に関して検討を続けていく。将来に向けての目標は以下のようである。

- ・履修指導体制を強化する。

学生の研究課題に関して、適切な履修が行えるよう指導する。

**【評価項目 6-2-3】 社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮**

(必須要素) 社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮

(現状の説明)

前期課程において、神学部から進学した学生には、その神学部教育との接続を意図して、神学部4年次の特殊研究演習で取り上げたテーマをさらに研究するよう指導しているが、社会人学生においては、神学ないしはキリスト教学を専攻してこなかった学生が多い。

これについては、神学部の導入科目を聴講するよう勧め、研究の基礎となる知識を修得するよう指導している。

履修に関する指導体制として社会人学生・外国人留学生へはその指導教員とともに、大学院教務学生委員が特に個別に面接を行っているケースも多い。

(点検・評価の結果)

社会人学生において神学またはキリスト教学を修得していない者については、神学部科目聴講等の指導上、修了に3年を要することが多い。これについては、入学時に十分な面談を行うことでほとんどの学生は理解している。しかしながら、今後は修業年限の短縮をはかるためのカリキュラムを編成することが重要である。

外国人留学生については、指導教員や教務学生委員が、個別面談や研究演習での学生間の交流を進めることにより、学修意欲の維持向上が図られている。

(改善の具体的方策)

前期課程のカリキュラムは、キリスト教学の基礎的な授業科目群を設置し、社会人学生がその課程修了に要する期間の短縮化を図る。